

聴覚・人工内耳センター

● スタッフ（平成30年10月1日現在）

部長 河野 淳

言語聴覚士 4名

事務員 1名

● センターの特徴

当センターは、補聴器や人工内耳埋め込み術を含めた聴覚に関する医療の様々な社会的背景とニーズから、東京医科大学病院に「聴覚・人工内耳センター（聴こえと言葉のケア）、ACIC（AUDITORY AND COCHLEAR IMPLANT CENTER OF TOKYO MEDICAL UNIVERSITY-CARE FOR HEARING AND LANGUAGE）」として設立されたもので、H 20 年に設立され12年になります。本センターの設立趣旨であります難聴者への補聴器や人工内耳に関する医療に関し、大学病院耳鼻咽喉科としての社会的貢献を基本に、医師、言語聴覚士を中心としたチーム医療という観点から聴覚障害でお困りの患者様のケア（先天性高度難聴児の場合には、言葉のケアも含め）を行い、かつ本邦における本領域の医療においての最先端モデルを構築し、教育・療育情報発信型のセンターをめざしているのがその特徴です。

● 対象疾患と診療実績

聴覚・人工内耳センターでの治療にあたっている患者の多くは難聴のある方で、補聴器や人工内耳を装用している、または装用する可能性がある方ですが、難聴を伴う／伴わないに限らず発達の遅れ、言葉の遅れや構音障害があるお子様などについても評価、訓練を行っております。

平成30年度（平成30年4月～令和元年12月）の患者数などについて示します。総外来患者数は3,111名、一日平均約12名。初診患者数は121名、人工内耳埋め込み患者数は56名（67耳）で、当センター初診の患者数の内訳などを以下に示します。また小児初診患者の特徴については別に記載しました。

○人工内耳装用者（当院手術総数1,041例、令和元年10月まで）

○補聴器装用者 試聴システム参加者48名
その他（補聴器持参者の経過フォロー）多数

○難聴児（難聴児疑い含む）88名

○言語訓練・構音訓練など 3名

● 最近の動向

最近では、難聴児、特に乳幼児の診断・療育などの医療のみではなく、幼小児期に人工内耳装用者となり大学進学や就職の時期に来ている患者様のさまざまなサポートに特に力を入れております。

また、平成30年度の初診患者小児71名中、年齢別に

は1歳未満45名、2～3歳が14名。更に詳細をみると1歳未満の全例は「難聴もしくは難聴疑い、検査」であり、新生児が29名、3ヶ月未満23名でありました。構音・言語訓練などことばの問題にて受診したのは2歳からみられ、2～5歳11名（同年齢総数23名）。また補聴器装用から人工内耳植え込み術に至ったのは30名で、うち半数が3歳までで有り、今後も低年齢化が予測されます。

● 今後に向けて

当センターは本邦で他にない難聴者に特化したセンターと言えるが、患者数の増加と症例の多様化により、課題は益々増加していると感じています。難聴者の補聴器や人工内耳の医療のみではなく、広く社会的な聴覚障害者への対策なども視野に入れ、業界団体、教育機関、関係機関とも連携し、聴覚障害者の治療とサポートに努めていきたいと考えております。

